



## 情緒支援学級から公立高校へ

### 幼児期

#### 子供について

- ・とにかくじっとしてられない子でした。
- ・おしゃべりが好きで食べることも大好き。でも嫌なこと（出来事）は話しません。
- ・初めての場所、人、出来事など未経験に対して拒否反応はかなりありました。

#### 園での様子

- ・大きな声であいさつをし、給食をいつもおかわりし、最後の一人になるまでいつも遊んでいる子でした。
- ・誰かと関わることはほとんど無く、一人で遊んでいることが多かったです（先生には遊んでもらいました）。

#### 療育

- ・OT、STに通っていました。はさみやのりなど身近な道具の使い方から体の使い方、力加減など様々なことを教わりました。

#### 相談

相談できる限りのたくさんの方に話を伺いました。どれもがすべて、子供に当てはまる話ではありませんが、一つでも多く情報を得たいという気持ちと、その上で、どう子供に接すれば良いか、数多く答えを出したい気持ちでした。

#### 卒園式

名前を呼ばれ、立ち上がり、先生の所まで行く。そして一人で席に戻って着席する。その当たり前の事ができた時、とても嬉しかったです。

### 小学校（情緒学級）

#### 入学までにしたこと

- ・発達テストの時、学習面についてのアドバイスをたくさんもらいました。
- ・学校生活がどんなものかを、子供にたくさん話をしました。
- ・入学前に怒ったり泣いた時どんな状態になるのか、学校の先生の希望もあり実際にみてもらいました。

### 小学校生活

学習面では少人数の中でじっくりと学ぶことができました。4年生頃から友達、先生など、他者を意識し始めました。もっと話したい、一緒に活動したいという思いが芽生え、同時に悩みも増えていきました。うまくいかない日々の中、人の意見を聞く、折り合いをつけるといった事を少しずつ学んでいきました。

自分の何が良くて何が悪かったのか、どう直せばいいのか、たくさん先生の方に話してもらいました。交流授業を受けていたこともあり、普段から自分のクラスと交流先のクラスとで自分の過ごしやすい場所を選んで（特に休み時間）いたと思います。

### 中学校（情緒学級）

小学校同様、色々なタイプのお子さんがありますが、クラスメイト一人一人を“そんなタイプの子”として受け入れていました。周りのお子さんと同じだと思います。お互いある程度受け入れていたからなのか、クラス全体のトラブルも小学校に比べて少なかったと思いました。学習面はやはり少人数での授業なので、分からないところをすぐ質問できたり、先生に気づいてもらいやすいと本人が感じていたようです。

宿題は多く大変でした。いつも提出期限ギリギリでした。高校の情報をより早く、多く集めました。そうすることで子供自身、今何をすべきか意識が（少し）できたと思います。

### 高校生の今

希望の公立高校を受験し、合格しました。これまで一つ一つ壁を乗り越えることが本当に大変で、苦難の連続でした。私も子供もよく頑張ったのでは？と思っています。その度にたくさんの方の話に耳を傾けてきました。子供は納得や理解ができないこともあったと思いますが、そうしたことを続けるうちに、学校以外の安心できる場（人）が増えました。周りの方に支えていただいたお陰で、心が強くなったと思います。親子共に感謝しております。子供がどんな感情であれ、表に出すということは意志があるということなので、良いことと受け止めた上で、直すべきところがあれば伝え、対処方法を一緒に考えていきたいです。

### 将来の夢

機械関係の大学へ行き、貨物列車の運転手になること

